

巻頭言



福井県知事 西川 一誠

新たな時代を拓く国際交流と人材育成

今日の急速なグローバル化の中、地域の発展を図るには、貿易や観光誘客などの経済面のみならず、教育、文化・スポーツなど多方面にわたる海外との交流促進とともに、地域と海外を結ぶ人材の確保が不可欠です。

幕末明治期には、近代的な学問や技術を習得するため、福井県から多くの人材が海外に留学しました。「幕末明治海外渡航者総覧」には、4,300名を超える海外渡航者が記載されており、このうち福井県の渡航者は100名を超えています。

当時の留学には、費用の負担だけでなく、留学中の病気など幾多の困難が伴いました。本県の海外留学の草分けとなり、アメリカ・ラトガース大学においてウィリアム・グリフィスと親交を結んだ日下部太郎は、病気のため26歳の若さで不帰の客となっています。

そのような厳しい環境の中にあっても、後に日本赤十字病院初代院長となった橋本綱常をはじめ、多くの福井の若者が志に燃え、ドイツやアメリカなどへ渡り、先進的な医学、鉱山学、法学等を学び、郷土と日本の発展に貢献しました。

現代は、交通・情報インフラの整備が進み、交流の範囲や機会が日々拡大していますので、早い時期から語学力をはじめ、多様な異文化を許容し、国際社会に柔軟に対応できる人材を育成することが大切となっています。

このため本県においては、県・市町を併せ、毎年300名を超える小中高生をアメリカや中国、ヨーロッパ等に派遣し、直に海外に触れることができる機会を作っています。

また、県内大学生の長期留学を支援する奨学金貸与制度に加え、本年2月から、日本学生支援機構や県内企業等と連携し、学生が県内企業の海外拠点等においてインターンシップ等を行うことのできる留学制度を開始しました。

さらに、県内2大学と友好協定を結ぶアメリカ・フィンドレー大学の協力を得て、県内企業の若手社員が国際ビジネス力を強化することのできる研修や視察を実施し、人材育成の幅を広げるなど、若者の海外派遣の継続拡大に努め、国内外において活躍できる人材育成を進めていきたいと考えています。